

令和5年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
(分担) 研究報告書

〈就労アセスメントアプリ〉 入力項目候補選定-文献検討より

研究分担者 川口孝泰 医療創生大学

研究代表者 丸谷美紀 国立保健医療科学院

研究分担者 白井千恵 順天堂大学精神医学教室

研究分担者 川尻洋美 群馬大学医学部附属病院

研究分担者 高井ゆかり 群馬県立県民健康科学大学

研究要旨

本研究の目的は、障害者本人の状態の変化と支援環境を突合させて経過をモニタリングするための〈就労アセスメントアプリ〉 入力項目の候補を選定することである。

方法は、既存のアセスメントツール、及び障害者・難病患者の就労支援に関する文献からアセスメントに関する項目を抽出し、モニタリングして可視化が必要な項目を選択し、類似する項目を分類整理した。

結果として、「就労に関する生活行動」「就労生活に影響する心身の症状」「就労生活や症状に影響し得る家庭環境・就労環境」に関する項目に整理された。

今後は、これらの候補の妥当性を実践者や障害者に確認し、精錬する必要がある。

A. 研究目的

本研究では、既存の障害者就労支援の研究成果を生かしながら、それらのアセスメントツールを補完ツールとして活用しながら、今日の情報通信技術を生かした継続的なアセスメント（モニタリング）を可能とする手段としてアプリケーションの開発を目指している。

本研究の目的は、障害者本人の状態の変化と支援環境を突合させて経過をモニタリングするための〈就労アセスメントアプリ〉 入力項目の候補を選定することである。

B. 研究方法

1) 研究期間：令和5年5月-令和6月

2) 方法：既存のアセスメントツール、及び障害者・難病患者の就労支援に関する文献からアセスメントに関する項目を抽出した。

それらの項目のうち、モニタリングして可視化が必要な項目を選択し、類似する項目を分類整理した。

（倫理面への配慮） 国立保健医療科学院倫理審査委員会の承認を得た（承認番号NIPH-IBRA # 23002）。

C. 研究結果 及び D. 考察

■障害者就労支援におけるアセスメントの文献的背景

障害者就労支援のためのアセスメントの研究は、障害者の職業選択や労働条件などの就

労にかかる希望やニーズ、就労のための基本的スキル・作業遂行能力や健康状態などの情報、および就労継続のための個人と環境の望ましい環境を評価するためのツールの提案、などを課題とする文献が多くみられた（文末の文献一覧参照）。それらの文献が提案するアセスメント項目の柱は、

- ① 就労に対する希望・ニーズに関する事項
 - ② 就労支援のための基本スキルに関する事項
 - ③ 就労継続のための環境評価に関する事項
- などが一般的なアセスメントの分類項目とされる。

とくにアセスメントすべき具体的なチェック項目として、「仕事の自発性」「仕事の準備と後片付け」「巧緻性」「労働福祉的知識」「家族の理解」「交通機関の利用」「指示系統の理解」「数量、計算、文字」などが挙げられ、障害者の就労支援においては重要な役割を果たすものである。すべての文献に共通する意見として、障害者の就労支援においては、個別のニーズに合わせた継続的なサポートが必要であることが挙げられている。本研究において開発を目指すアプリケーションの開発は、個別性や継続性のサポートを実現するためのツールとして、その重要性がうかがえる。

また、障害者就労支援にはさまざまなプログラムの提案もなされている。これら就労支援プログラムの目的は、一般企業で働きたい障害者の方を対象に、就労するための技術を身に付けてもらい、それを活かす訓練を促すものであり、それらの研究が提案している内容は大きく以下のように分類されている。

- ① 社会スキル：コミュニケーションスキルや自己管理能力を身につけるトレーニング。
- ② ビジネススキル：パソコンスキル、ビジネ

スマナー、報連相などのビジネスに必要な基本的なスキル。

- ③ 専門スキル：職場で必要な専門的なスキルの習得。
- ④ 就活スキル：職場実習や企業研究、応募書類作成、面接練習など。
- ⑤ 援助付き雇用プログラム：精神疾患を抱える人が仕事に就けるよう支援する方法の一つで、現場での支援やトレーニングを提供し一般企業への就職を目指す。
- ⑥ 個別就労支援プログラム（IPS）：援助付き雇用の一種で、一人ひとりに合わせた専門トレーニングを提供し、就職後の職場定着の支援も行う。

これらのプログラムは、障害者の就労をサポートし、社会参加を促進する重要な役割を果たしている。

その他、障害者就労支援に関する日本との国際比較を行った文献も多い。

- ① 障害者雇用率向上の国際比較：日本では障害者雇用の促進が進められ、企業は障害者雇用の割り当てを受け、さまざまな支援策を実施している。
- ② 障害者雇用支援機関の国際比較：就労移行支援事業所や障害者就労支援センターなどが、障害者の就労支援に取り組んでいる。
- ③ 国際協力機構（JICA）の国際的な役割：JICAは障害者の人権尊重と「完全参加と平等」を目指し、障害者の社会参加を促進するための国際プロジェクトを展開している。
- ④ 海外視察の成果検証：JICAはオランダやドイツなどで、国外の障害者就労支援制度を視察し、日本に適用できるノウハウを取り入れている。

さらには、日本での取り組みを背景にした

国際的な取り組みとして、

- ⑤ SDGs（持続可能な開発目標）と関連：SDGsの目標8「働きがいも成長も」に障害者の雇用が含まれ、世界中の障害者雇用の拡大が求められている。
- ⑥ 国際連合（UN）との連携：国連では、障害者の権利尊重と社会参加を推進し、各国での障害者の雇用支援の実態の把握と連携。

などが代表文献として挙げられる。

以上の取り組みは、社会のグローバル化の観点からも、障害者の社会参加と人権尊重を推進するために重要なものであり、本研究が目指すツールの開発とも一致している。

■本研究におけるアセスメントアプリ項目の設定

本研究では、既存の障害者就労支援の研究成果を生かしながら、それらのアセスメントツールを補完ツールとして活用しながら、今日の情報通信技術を生かした継続的なアセスメント（モニタリング）を可能とする手段としてアプリケーションの開発を目指している。

「障害者本人の状態の波（身体面・心理面の良好な時期と不調な時期）と支援環境（物理的・人的支援状況等）を突合させてモニタリングし可視化するためのツールとして〈就労アセスメントアプリ〉を制作する。このア

プリは、就労を希望する障害者の方と支援者の方が初回面接後に、障害者の状態の波と支援環境の経過を入力し、定期的な面接の際にグラフ等で示し、タイムリーに必要される個々人の支援を、経過する時間軸上の変化に合わせて検討するためのツールとして活用する。

アプリによるアセスメント項目の設定は、関連する既存の文献を参考に、以下の手順での統合を行った。統合の手順は、

- 1) 既存のアセスメントツール、及び障害者・難病患者の就労支援に関する文献からアセスメントに関する項目を抽出した。
- 2) 上記1)の項目のうち、モニタリングして可視化が必要な項目を選択し、「就労に関する生活行動」「就労生活に影響する心身の症状」「就労生活や症状に影響し得る家庭環境・就労環境」に関する項目を抽出した。
(障害種別などフェイスシートに記録しモニタリングの必要性が少ないと思われる項目は、含めなかった。)
- 3) 類似する内容の項目を分類した。

その結果、表1のように整理された。

表1. 先行研究を基に整理したアプリ入力項目候補

(文献から整理した) 就労アセスメントアプリの入力項目: 生活行動、身体・心理面の症状・環境の状況							
1. 一日の行動のうちモニタリングが必要な項目		2. その時の気持ちは体の様子		3. その時の周りの状況			
食事	出来た [□] 出来ない [□] どちらとも言えない [□]	気持ちの落ち着き [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	家庭内の動きやすさ [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	家庭内の動きやすさ [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]
睡眠	大丈夫 [□] ちょっと不眠 [□] かなり不眠 [□]	集中力や意欲 [□] 体の症状 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	家族の理解や協力 [□] 服薬や通院の時間確保 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	家族の理解や協力 [□] 服薬や通院の時間確保 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]
生活リズム (一日のスケジュール)	出来る [□] 出来ない [□] どちらとも言えない [□]	動きや感覚の制限 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	通りの雰囲気 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	通りの雰囲気 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	通りの雰囲気 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	通りの雰囲気 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]	通りの雰囲気 [□] 大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]
清潔や身だしなみ	出来た [□] 出来ない [□] どちらとも言えない [□]						
健康管理	出来た [□] 出来ない [□] どちらとも言えない [□]						
金銭管理	出来た [□] 出来ない [□] どちらとも言えない [□]						
家庭での役割	あり [□] なし [□] どちらとも言えない [□]						
通所や通勤などの移動	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]						
周りの人との意思疎通	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]						
意思表示	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]						
ルールや連絡を守る	出来た [□] 出来ない [□] かなり辛い [□]						
作業	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]						
失敗や助言への対応	大丈夫 [□] ちょっと辛い [□] かなり辛い [□]						
危険への対処	出来た [□] 出来ない [□] どちらとも言えない [□]						
余暇の過ごし方	出来た [□] 出来ない [□] どちらとも言えない [□]						

E. 結論

本研究の目的は、障害者本人の状態の波と支援環境を窓合させて経過をモニタリングするための〈就労アセスメントアプリ〉入力項目の候補を選定することである。

方法は、既存のアセスメントツール、及び障害者・難病患者の就労支援に関する文献からアセスメントに関する項目を抽出し、モニタリングして可視化が必要な項目を選択し、類似する項目を分類整理した。

結果として、「就労に関する生活行動」「就労生活に影響する心身の症状」に関する項目、「就労生活や症状に影響し得る家庭環境・就労環境」に整理された。

今後は、これらの候補の妥当性を実践者や障害者に確認し、精錬する必要がある。

【文献一覧】

① 有村達之, 小宮山博朗, 細井昌子: 疼痛

生活障害評価尺度の開発, 行動療法研究,

23 (1) 7 - 15, 1997.

- ② 佐藤 勝彦, 菊地 臣一, 増子博文, 岡野 高明, 丹羽 真一: 脊椎・脊髄疾患に対するリエゾン精神医学的アプローチ(第2報) 整形外科患者に対する精神医学的問題評価のための簡易質問票(BS-POP)の作成, 臨床整形外科, 35(8), 843-852, 2000.
- ③ Adachi, T. Nakae, A. Maruo, T. Shi, K. Shibata, M. Maeda, L. Saitoh, Y. Sasaki, J. :Validation of the Japanese Version of the Pain Self-Efficacy Questionnaire in Japanese Patients with Chronic Pain, Pain Medicine, 15(8):1405-1417, 2014.
- ④ DSM5 Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders
- ⑤ 前原和明・今井彩・秋田障害者総合支援

- 協議会就労支援部会著「職業的アセスメントから進める就労支援」2022. 1. 28
- ⑥ IAOE-J：日本版・就労支援のための利用者に一時のアセスメントチェックリスト
- ⑦ 前原和明、八重田淳：知的障がい当事者の社会参加に対するニーズ調査 p75
- ⑧ 改訂版・就労移行支援事業所による 就労アセスメント実施マニュアル p4 就労支援のための訓練生用チェックリスト
- ⑨ 改訂版・就労移行支援事業所による 就労アセスメント実施マニュアル p31 導入期の面談での確認項目
- ⑩ 改訂版・就労移行支援事業所による 就労アセスメント実施マニュアル p35 具体的な検討事項
- ⑪ 改訂版・就労移行支援事業所による 就労アセスメント実施マニュアル p38 面談での確認する項目
- ⑫ 改訂版・就労移行支援事業所による 就労アセスメント実施マニュアル p44～48 基本的なルール
- ⑬ 職業的アセスメントの基礎 p 12～13 (職業的アセスメントの視点)
- ⑭ 就労移行支援のためのチェックリスト
独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構
障害者職業総合センター調査研究報告書
No. 168 就労困難性(職業準備性と就労困難性)の評価に関する調査研究 —「就労支援のためのアセスメントシート」の開発— p38 表2-5 就労継続を妨げる要因のカテゴリー、概念、要約文の例 (障害種類に関わらない)
- ⑮ 就労支援のためのアセスメントシート活用の手引 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター p37-51 II. 就労のための基本事項
- ⑯ 就労支援のためのアセスメントシート活用の手引 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター p52-81 III. 就労継続のための環境
- ⑰ 常時介護が必要な重度身体障害者の就労支援～相談支援の立場から～ 表1 就労環境調整シート
- F. 健康危険情報
なし
- G. 研究発表
1. 論文発表
なし
2. 学会発表
Marutani M, Usui C, Kawajiri H, Takai Y, Kawaguchi T
Support a reason for living of persons with disabilities using the mobile phone application. 3rd Edition of International Public Health Conference March 21-23, 2024, Singapore
- H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし